

囚われ姫の性開発・服従教育（アギオン編）

（登場人物）

アギオン

：

商業国家アグロの国王で、瞳はアグロの王族であることを示す紫色。二年前に若くして王となったが、自ら前線に立つため兵からの信頼は厚く、国民にも慕われている。貴女をアグロに連れてこさせ自分の妃にしようとしている。

貴女

：

ラバスティアの元第一王女で、突然の侵攻により隣国アグロに捕らわれた。アグロ国王に嫁ぐためという理由でロギナに一ヶ月間性的調教され、処女のまま子宮で絶頂できるようアナルを開発された。

ロギナ

：

アグロ国王の従者。王の命令で捕らえた貴女に、一か月間特別な調教を施した。貴女を送り出した後の消息は不明。

トラック1 王と囚われの姫

／＼アグロの兵に捕らわれた貴女は、アグロの城の広間に連れて来られる

五段の階段の上に玉座があり、アギオンが座っている

○アグロ城の広間

／＼貴女は玉座に向かって歩いていき、階段前で跪く

SE: 貴女の足音（大理石の床を靴で、玉座の階段下までゆっくりと）

SE: 貴女が床に跪く音（大理石の床、簡易なドレス）

アギオン「ようこそアグロへ。ラバスティア第一王女……いや、元王女」

アギオン「……（静かで威圧的な口調で）顔を上げろ。俺がアグロの現国王、アギオンだ」

SE：貴女が顔を上げる音

／＼貴女はアギオンの顔がロギナに似ていることに驚く

SE：衣擦れ

アギオン「……どうした？　俺の顔に何か付いているのか？」

／＼貴女「あ……いえ……」

アギオン「まあいい。……お前を我が妻として迎え入れる。異論はな
いな？」

／＼貴女「……ありません」

SE…衣擦れ

アギオン「……（嘲笑って）ふっ。あるはずもない。拒めばその愚かな
決断が何をもたらすのか解っているだろう」

アギオン「では早速、アグロと俺への忠誠の証を見せてもらおう。……

…こっちへ来い」

／＼貴女は立ち上がって、絨毯が敷かれた五段の階段を上っていく

SE：貴女が立ち上がる音（大理石の床、簡易なドレス）

SE：貴女の足音（絨毯を靴で、玉座までゆっくりと）

／＼貴女は玉座に座るアギオンの目の前に跪く

SE：貴女が跪く音（絨毯の上、簡易なドレス）

アギオン「ほう…自ら跪くとは、生き延びるための術はすでに身につけているようだ」

アギオン「…そう。お前が我が妃となりアグロへの絶対服従を誓えば、可愛い弟妹も生き残った臣下も生き長らえる」

／＼貴女「……………はい。アグロと陛下に絶対服従を誓います」

SE：衣擦れ

アギオン「ではその絶対の服従という言葉に偽りがないか……………手始めに、お前の純潔を確かめよう」

／＼アギオンが立ち上がる

SE：アギオンが玉座から立ち上がる音

アギオン「ついて来い」

／＼アギオンは貴女を背にして階段を下りていく

SE::アギオンが階段を下りる音（絨毯の上を靴で、貴女から遠ざかる）

トラック2 連続子宮アクメの初夜

／＼トラック1の続き

○城の廊下 ↓ 貴女のための寝室

／＼二人が城の廊下を歩いている。アギオンが前、貴女が後ろ

SE：二人の足音（絨毯を靴で）

貴女「あの……失礼ながら申します。……あなたはロギナ様ではないのでしょうか……？」

アギオン「（歩きながら）ロギナ？ 誰だ」

／＼貴女「えっ……」

アギオンが従者であるはずのロギナを知らないということに驚いた貴女が一瞬立ち止まるが、小走りでアギオンを追いかける

SE…アギオンの足音（絨毯を靴で）

SE…貴女の足音（絨毯を靴で、小走り）

アギオン「（歩きながら）……そのような名は聞いたこともない」

／＼アギオンがドアの前で立ち止まり、貴女も止まる

貴女「ですが……陛下にとっても似ている方で……」

アギオン「（振り返って貴女をじっと見つめて）似ている？ ……その

男の瞳は、このように明るい紫色だったか？」

／＼貴女「あっ………いいえ………」

貴女は悲しげに首を横に振る

SE：貴女が首を横に振る音

アギオン「この色は王族の証。違うのなら別人だ。……そもそも、この城にそんな名前の男はいない」

／＼貴女「……」

SE：衣擦れ

アギオン「くだらない話はこれで終わりだ」

／＼アギオンがドアを開け部屋に入り、貴女も中に入る

SE：部屋の扉を開ける音（木の扉）

SE：アギオンの足音（絨毯を靴で、数歩）

SE：貴女の足音（絨毯を靴で、数歩）

アギオンがドアを閉め、テーブルに向って歩いていく
貴女はドアの前に立っている

SE：部屋の扉を閉める音（木の扉）

SE：アギオンの足音（絨毯を靴で、貴女から遠ざかる）

アギオン「……今晚俺の言うとおりにすれば、お前の弟と妹に会わせ
てやろう」

／＼貴女「本当ですか！」

SE：衣擦れ

アギオン 「ああ。言うとおりにして、俺を満足させればな。………

まずは、このグラスの中の物を飲み干せ」

／＼アギオンが、テーブルに置いてある、液体が入った小さいグラス
を取る

SE: アギオンがグラスを取る音（木製のテーブル、ガラスのグラス）

貴女がアギオンに近づき、グラスを受け取る

SE: 貴女の足音（絨毯を靴で、アギオンに近づく）

SE: 貴女がグラスを受け取る音

アギオン 「快楽を得やすくするものだ。ピンク色の見た目通り、甘く
て飲みやすい」

／＼貴女がグラスの液体を飲み干す

SE：貴女が液体を飲む音

アギオンが貴女から空のグラスを受け取り、テーブルに置く

SE：アギオンがグラスを受け取る音

SE：アギオンがグラスを置く音（木製のテーブル、ガラスのグラス）

SE：貴女が咳き込む音（軽く）

アギオン「喉が熱いか？　じきに違うところも熱くなる。服を脱げ」

／＼貴女は少し躊躇ったのち、その場ですべての服と靴を脱ぐ

SE：貴女が服と靴を脱ぐ音

アギオン「ふっ。素直でいい……………自分の立場をよく理解しているな」

／＼アギオンは品定めをする目つきで、貴女の右側から背後へと歩いていく

SE：アギオンの足音（絨毯を靴で）

アギオン「（歩きつつ貴女の体を眺めて）……………傷も痣もなく、美しく清らかな体……………」

アギオン「（貴女の背後から）ベッドに四つん這いになれ」

／＼貴女が部屋のベッドに乗り、アギオンもベッドに近づく

SE：貴女の足音（絨毯を裸足で、アギオンから遠ざかる）

SE：アギオンの足音（絨毯を靴で、貴女に近づく）

SE：貴女がベッドに乗る音

／＼貴女はベッドに四つん這いになって尻を高く上げ、アギオンは立
ったまま貴女の陰部を確認する

SE：シートが擦れる音

SE：ベッドが軋む音

SE：アギオンが貴女の肌に触れる音

アギオン「言われなくても尻を高く上げて、男に見せるための所作が
よくわかっている」

アギオン「（冷静な口調で）……可愛らしいピンク色で……見られてひ
くついているが、処女膜に問題はないようだ」

アギオン「こんなに滑らかな肌で美しい王女の貞操が、これまで守られていたとは。そろそろ結婚の話も出ていたんじゃないか？」

／＼アギオンが貴女を仰向けにしてベッドに押し倒す

SE：アギオンが貴女を押し倒す音

アギオン「よく見る。俺が、お前の夫になる男だ。すべての快楽は俺が教える」

アギオン「（貴女にキスをする、貴女は口を閉じている）」

アギオン「力を抜いて、口を開けろ」

アギオン 「（貴女にキスをする、軽く）」

アギオン 「いい子だ」

アギオン 「（貴女にキスをする、舌を絡めて）」

アギオン 「頬が少し赤いな。あれを一気に飲んだから芯が熱くなつてきたんだろう」

アギオン 「囚われた姫の初夜には相応しい」

／＼アギオンは貴女に覆いかぶさった姿勢で貴女の陰部に触れる

SE：アギオンが貴女の陰部に触れる音（濡れている）

SE：シートが擦れる音

アギオン「……ああ、もう濡れてる。キスだけでこうなるとは……随分敏感だ」

SE：アギオンが貴女の陰部を弄る音（濡れている）

アギオン「これなら、俺のも早くここに挿れられそうだな」

／＼アギオンはキスをしながら貴女のクリトリスを弄る

SE：アギオンが貴女のクリトリスを弄る音（濡れている）

アギオン「（貴女にキスをする、舌を絡めて）」

アギオン「は……クリトリスを擦ったら更に濡れてきたぞ。中は……」

SE…アギオンが貴女の膣に指を挿入する音（指一本）

SE…シートが擦れる音

アギオン「まだ狭いか。足をもっと開け」

／＼貴女が足を開く

アギオンが、貴女の乳首を舐めながら貴女の膣を弄る

SE…貴女が足を開く音

SE…貴女の膣に挿入した指を動かす音（指一本、段々濡れてくる）

アギオン 「（貴女の右乳首を吸ったり舐めたりする）」

SE .. シーツが擦れる音

アギオン 「（笑って） ふっ……乳首も弱いな。一気にぐちよぐちよだ」

SE .. 貴女の膣に挿入した指を動かす音（指一本、濡れている）

アギオン 「ほら、聞こえるだろう」

SE：貴女の膣に挿入した指を動かす音（指一本、濡れている）

アギオン「（貴女の右乳首を舐める、長め）」

SE：シートが擦れる音

アギオン「さつきから腰を揺らして、自分でイイトコロに当ててるのか？」

／＼貴女「違う……」

SE：貴女が首を横に振る音

アギオン 「何が違うんだ？ お前のいい場所はここだろ？」

SE.. 貴女の膣に挿入した指を動かす音（指一本、濡れている）

SE.. シーツが擦れる音

アギオン 「おっと、まだイクなよ。気持ちいいのは耐えなくていいが、
イクのは我慢しろ」

アギオン 「まんこと乳首を同時に、子宮が疼くまで可愛がつてやる」

SE.. アギオンが貴女の膣に指を挿入する音（一本追加）

アギオン「（貴女の左乳首を舐める）」

SE.. シーツが擦れる音

SE.. 貴女の膣に挿入した指を動かす音（指二本、濡れている）

アギオン「ダメだ。この奥が疼くまでと言っただろう」

SE.. シーツが擦れる音

SE.. 貴女の膣に挿入した指を動かす音（指二本、濡れている）

アギオン「（貴女の左乳首を舐める）」

SE: アギオンが貴女の膣に指を挿入する音（もう一本追加）

アギオン 「まだだ。まだイくな」

SE: シーツが擦れる音

SE: 貴女の膣に挿入した指を動かす音（指三本、濡れている）

アギオン 「（貴女の左乳首を舐める）」

SE: シーツが擦れる音

SE：貴女の膣に挿入した指を動かす音（指三本、濡れている）

アギオン「……確かに……シーツまでべっとり濡らして……限界か」

／＼アギオンは貴女の膣から指を抜き、愛液がついた指を舐める

SE：アギオンが貴女の膣から指を抜く音（指三本、濡れている）

アギオン「（自分の指についた愛液を舐める）」

／＼アギオンが自身のズボンの前を寛げ、陰茎を取り出す

SE：シーツが擦れる音

SE：アギオンがベルトを外す音

SE: アギオンがズボンの前を寛げる音

アギオン 「俺のを香油で濡らしておくか」

／＼アギオンが自身の陰茎を香油で濡らす

SE: アギオンが香油の瓶を取る音

SE: アギオンが香油の瓶の蓋を開ける音（ガラス製の瓶と蓋）

SE: アギオンが陰茎に香油を垂らす音

SE: アギオンが香油の瓶の蓋を閉める音（ガラス製の瓶と蓋）

SE: アギオンが香油の瓶を置く音

アギオン 「処女であつても、これだけ濡れていれば何も心配ない」

SE：アギオンが陰茎を扱く音（香油を塗り広げる）

／貴女「……ロギナ様……」

SE：シートが擦れる音

アギオン「……ロギナ……その男が好きなのか？ お前を抱かな

かったその男が恋しいか？」

アギオン「忘れる。お前はアグロの王妃になることを選んだだろう」

アギオン「……忘れられないなら、俺とのセックスで忘れさせてやる」

／アギオンが陰茎を貴女の膣に挿入していく（正常位）

SE：アギオンが貴女の足を広げる音

SE: ベッドが軋む音

アギオン「(陰茎を挿入する息)」

SE: アギオンが貴女の膣に陰茎を挿入していく音 (先端をゆっくり)
SE: シーツが擦れる音

アギオン「ほら、もう先端が入った。触ってみろ」

／＼アギオンが貴女の手を取り結合部に導く

SE: アギオンが貴女の手を取る音

SE: シーツが擦れる音

SE：貴女の手が結合部に触れる音

アギオン 「カリが全部埋まって、俺の形に広がってるだろう？」

SE：アギオンの手が結合部をなぞる音

アギオン 「お前のここは、初めてでも貪欲に受け入れて、誘うように
締めてくる良い膣だ」

SE：シートが擦れる音

アギオン「ビクビク震えて、奥へ奥へと……」

SE…アギオンが貴女の膣に陰茎を挿入していく音（ゆっくり）

アギオン「んっ……は……少し引っ掛かってるか……。もっと、尻を上げるんだ……く、うっ！」

SE…ベッドが軋む音

SE…アギオンが貴女の膣に陰茎を挿入する音（一気に）

SE…シートが擦れる音

アギオン「は……は………一気に入ったな。根本まで、もうすぐだ

っ……！」

／＼アギオンの陰茎が子宮口に届くのと同時に、貴女が絶頂に達する

SE：アギオンが貴女の膣に陰茎を挿入する音（奥まで）

SE：シートが擦れる音

SE：ベッドが軋む音

SE：貴女の膣に挿入した陰茎を抜き差しする音（小刻みに、ゆっくり）

アギオン「ほら。一番奥の、子宮口にチンポがぶつかってるのがわかるだろう」

SE：貴女の膣に挿入した陰茎を抜き差しする音（小刻みに、少しして止まる）

アギオン 「ん？ まさか、もうアクメしたのか？」

SE.. シーツが擦れる音

アギオン 「まだ入れて奥を少し突いただけだぞ。これからだろう」

SE.. アギオンが貴女の足を抱えなおす音

SE.. アギオンが腰を回す音

アギオン 「こうやって、子宮口を擦るのはどうだ？」

SE：シーツが擦れる音

アギオン「いい声だ。いったせいでより敏感になってるな」

アギオン「もっと、ぐりぐり擦りつけてやる」

SE：アギオンが腰を回す音

アギオン「（貴女にキスをする、腰をゆっくり動かしただまま愛おしげに）」

アギオン「はあ………：搔き回して柔らかくなってきたら、また突き

上げて……」

SE…貴女の膣に挿入した陰茎を抜き差しする音（小刻みに）

アギオン「ほら。たまらないだろう。これを繰り返せば、子宮でのア
クメが癖になる」

SE…アギオンが腰を回す音

SE…シートが擦れる音

アギオン「（貴女にキスをする、腰をゆっくり動かしのまま）」

SE::アギオンが腰を回す音

／＼貴女「あつ、あ！　　…もう、イきますっ！　イかせてください
…っ！」

SE::シートが擦れる音

アギオン「さっきまで処女だったのにまたいくのか？　（笑って）く
くっ（貴女の左の耳元で）ああ、イっていいぞ。俺ももう
出そうだ」

SE::貴女の膣に挿入した陰茎を抜き差しする音（小刻みに、段々速く）

アギオン「（貴女の左の耳元で抽挿する息・8秒）」

SE：アギオンが腰を回す音

アギオン「（貴女にキスをする、腰をゆっくり動きのまま）」

SE：シートが擦れる音

SE：貴女の膣に挿入した陰茎を抜き差しする音（小刻みに）

アギオン「（貴女の左の耳元で）……う、くっ……っ、出すぞ……！
（射精する）っ、あ……あ……うっ……っ……！」

SE::アギオンが貴女の髪をかき上げる音（汗で濡れている）
SE::シートが擦れる音

アギオン 「涙が出るほど良かったか。ナカがまだ震えているな」

SE::貴女の膣に挿入した陰茎を抜き差しする音（小刻みに、ゆっくり）

アギオン 「今の余韻のまま続けたら凄いいぞ」

SE::シートが擦れる音
SE::アギオンが腰を回す音

アギオン「（貴女の左の耳元で）さつきよりも強い快感が味わえる」

SE.. 貴女の膣に挿入した陰茎を抜き差しする音（小刻みに）

SE.. シーツが擦れる音

アギオン「（貴女の左耳を舐める・8秒）」

SE.. 貴女の膣に挿入した陰茎を抜き差しする音（小刻みに、段々速く）

アギオン「（貴女の左の耳元で）優しくされるより強引に攻められる方が好きか……。（自嘲気味に笑って）ふっ……それならそこ

とん満たしてやろう」

SE: 貴女の膣に挿入した陰茎を抜き差しする音（小刻みに、やや速め）

アギオン 「（貴女の左の耳元で抽挿する息・10秒）」

SE: 貴女の膣に挿入した陰茎を抜き差しする音（小刻みに、速め）

アギオン 「（貴女の左の耳元で抽挿する息・5秒）2発目も、あっさり
搾り取られそうだ。……………抑えないで声を出せ」

SE:: 貴女の膣に挿入した陰茎を抜き差しする音（小刻みに、やや速め）

アギオン 「（貴女の左の耳元で抽挿する息・5秒）」

SE:: シーツが擦れる音

アギオン 「（貴女の左の耳元で満足そうに笑って）そうだ。それでいい」

SE:: 貴女の膣に挿入した陰茎を抜き差しする音（小刻みに、速め）

アギオン 「（貴女の左の耳元で抽挿する息・10秒）」

アギオン「（貴女にキスをしながら射精する）」

／＼アギオンの射精と同時に貴女も絶頂に達する

SE：ベッドが軋む音

アギオン「（息を整えて）は……は……は……は……は……は……ふ……は……

……（呟くように）お前は誰にも渡さない」

アギオン「（貴女にキスをする、貪るように）」